

# SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

## 風の絨毯

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2003 (平成15) 年4月21日鑑賞

<試写会>

Data

監督: カマル・タブリーズィー

出演: 工藤夕貴/榎木孝明/柳生美

結

## 👁️👁️ みどころ

飛騨高山のさくら祭りを飾る1枚のペルシャ絨毯の完成をめぐって、日本の少女とイランの少年との心の交流が描かれる。美しくそして心温まる日本とイランの合作映画。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <珍しい日本とイランの合作映画>

この映画は、社団法人企業メセナ協議会による助成認定活動として、「風の絨毯」製作委員会が広く企業や個人より協賛・協力を得て製作したもの。日本は岐阜県の飛騨高山が舞台、イランはイスファハンという町が舞台だ。2002年の東京国際映画祭に正式出品された作品で、上映後、笑いと涙の大反響があったとのこと。そしてファジール映画祭ベスト観客賞を含む3賞を受賞した作品とのことだ。

### <日本の美とペルシャの美>

この映画のテーマは、この2つの美。

日本の美は、飛騨高山の春のさくら祭りとそこに使われる山車の伝統美。そしてペルシャの美はいうまでもなくペルシャ絨毯。本物のペルシャ絨毯は、イラン国内でも大変高価な製品で、革命後イランでは、ペルシャ絨毯を国家的財産とみなし、国内消費用と輸出用に分け、海外への持ち出しについては、国家が管理し適正価格が付けられているとのことだ。絨毯の製作費用だけでも1000万円以上するとのことだ。

### <単純ながら心打つストーリー>

ストーリーは単純。飛騨高山のさくら祭りの日にペルシャ絨毯を完成させようとしてい

た母（工藤夕貴）は突然交通事故で死亡した。一人娘のさくら（柳生美結）は母を失ったショックで笑顔を失い、心を閉ざしていた。そんな悲しみの中、夫（榎木孝明）はさくらを連れてイランへ飛び、注文していた絨毯を日本に持ち帰ろうとした。

しかしそこに大きな手違いが・・・。

なんと日本語の堪能な仲買人のアクバルの注文を工場長のモラドハンがすっかり忘れており、何ら作業に着手していなかったのだ。祭りまでの期限が迫っている。絶望的な状況となった。そこに登場したのがアクバルの甥っ子のルーズベ。彼は、幼いながらも観光馬車に乗って一家の生計を支えていたが、日本からきた少女さくらに淡い気持ちを抱き、何とか力になろうとした。そして提案したのは、「みんなが力を合わせ、手の早い織り子を動員して交代制で24時間体制で絨毯を織れば、20日間で完成できる！」というものだ。

そこから絨毯完成に向けての感動的なそして同時にユーモア溢れる人間のドラマが始まった。そして完成した絨毯には、イランの人たちの温かさによって母を失った悲しみから立ち直ったさくらが刻んだピンクの糸と、彼女を見つめ励まし続けたルーズベが刻んだ青い糸の結び目があった！これは2人だけにわかる友情の印だった。

### <心に残るイランのことわざ>

1本1本の糸を人間の手で織りあげて、何日もかけてつくるペルシャ絨毯。この絨毯の完成に向けて多くの人たちの心が繋がっていった。すなわち絨毯の完成は、イランの人たちと日本の人たちとの心の繋がりの完成と同一のものだった。

映画の中で語られる次の3つのことわざは感動的。是非私の心の中にも刻みつけておきたいものだ。

- ①「全てを失った時に、新たな希望が生まれる」
- ②「こまった時ほど、人間は神に近づく」
- ③「たて糸が切れても修復できる。心の糸が切れないように」

最後に、私の大好きな工藤夕貴の出番が少なかったのは残念だったが・・・。

2003（平成15）年4月22日記